

工夫が詰まった「買い物かご」

今年7月、レジ袋が有料となりマイバッグを持つ人が多くなりましたが、昔の入れ物はマイバッグではなく「買い物かご」でした。昭和40年代、買い物といえば「買い物かご」を持って肉屋や八百屋、魚屋を回っていました。レジ袋はなかったため、買ったものは買い物かごに入れて持ち運びました。現在のマイバッグとは形や材質が異なりますが、そこに当時ならではの工夫が凝らされています。



▲実際に使用されていたかご

当時の品物はほとんどがバラ売りで、現在のようにパック詰めや個包装ではなく木の皮や新聞紙などで包んでもらっていました。肉や魚は斜めにするとう水分がこぼれて入れ物が汚れます。そのため買い物かごの底は水平に置くことができるよう平らに作られていました。また、かごは植物などをしっかり編み込んで全体が硬く作ってありました。頑丈なので、何かにぶつかってかごの中の卵などが割れるのを防ぐことができました。このように、昔の買い物かごには買ったものをきちんと運ぶための工夫が詰まっていたのです。



▲かごを片手に買い物中(昭和45年大和町にて「福間町町村合併50周年記念誌-福間町史写真集『福が住む町。』」より)



始めよう
エコショップで
環境にやさしい生活

環境にやさしい取り組みはしてみたいけれど「具体的にはどんなことをすればいいのか」「自分たちに何ができるのだろうか」と思う人は多いのではないのでしょうか。市内には環境保全活動を行っている事業所「エコショップ」があります。今回は、エコショップを通して環境にやさしいまちづくりの現に向けた取り組みを紹介します。

問い合わせ 市うみがめ課 ☎62・5019

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

エコショップの 14の取り組み項目

- 1 使い捨て容器等の使用削減
- 2 量り売り・バラ売りの実施
- 3 詰め替え商品の販売
- 4 簡易包装の推進
- 5 レジ袋の削減のためマイバック等持参を推進
- 6 環境に優しい商品の積極的な販売・使用
- 7 取り扱い商品の修理を促進
- 8 缶・瓶・トレイ等の店頭回収の実施
- 9 公共エリア環境づくり事業の実施
- 10 草刈り・清掃など地域の環境美化に協力
- 11 アイドリングストップの推進
- 12 太陽光などの自然エネルギーの利用
- 13 地産地消の推進
- 14 省エネルギーの取り組み

※これらの項目は今後見直しを行います

認定事業所の 取り組み

市のエコショップ認定制度は、市内の事業所を対象としていること以外に、業種などの特別な決まりはありません。また認定には14の取り組み項目のうち、1つ以上取り組んでいることが条件です。この取り組み項目は、省エネルギー対策、資源循環の推進、地域環境美化の主3つの分野があり、これらはさまざまな業種に対応できるように取り組みを設定しています。

省エネルギー対策には、認定事業所の約7割が取り組んでおり、中には「照明を全てLED照明に取り換えた」「朝、昼休み、夜のお客さんが少ない時間帯は事業所内の照明や空調を抑えている」「太陽光発電の製品を購入している」という認定事業所もあります。

また、資源循環の推進には、建築現場で出たごみの分別を徹底し、廃棄しているところや、事業所の入り口に資源回収ボックスを置き、消費者がその店舗を利用することで、出た食品トレイや牛乳パック

を回収するなど、資源物として再利用することなどに取り組んでいるところもあります。さらに、エコマーク商品や再生商品など環境への負荷が少ない事務服や作業服なども積極的に購入・販売したり、事業所内で使用したりする所も増えてきています。

最近では、地域環境美化の推進として、地域貢献に取り組む認定事業所も多くなりました。事業所周りの清掃から海岸松林や海岸、河川の環境美化活動への積極的な参加が見られます。

また、認定事業所がそれぞれ独自に行っている取り組みもあります。例えば、小売店や製造業の認定事業所では、商品を入れるダンボールや梱包材をすぐ捨てるのではなく、再利用しているところがあり、多くの認定店で書類の両面印刷によって紙の消費を抑える努力をしています。

このように、認定事業所が環境に配慮した取り組みを各自が行っている範囲で、工夫しながら行っており、この動きは市内の事業所に広がってきています。

▲お客さんに前回購入した際の茶袋を持参してもらい、袋の再利用に取り組んでいる事業所

エコショップって なんだろう

市は、ごみの減量化やリサイクルの推進、環境保全活動に積極的に取り組む市内の事業所を「エコショップ」として認定しています。

この取り組みは「福津市エコショップ認定制度」を開始した平成23年から、今年で10年目を迎えました。その間、



▲エコショップ認定制度の仕組み

エコショップ募集中!

市はエコショップ認定事業所を募集しています。認定を希望する事業者は、市公式ホームページから認定申請書と取り組みシートを入手し、記入の上、市うみがめ課に提出してください。

提出ののち、認定を受けた事業所には、エコショップ認定証と認定ステッカー、希望者にはのぼりを配布します。

市は事業者や市民の皆さんと共にエコショップ認定制度の輪を広げていきたいと考えています。市内の環境にやさしいお店や事業所をご存じのかたはぜひご連絡ください。

今回紹介した事業所以外にも、意欲的に取り組む認定事業所が多くあります。市公式ホームページで紹介していますのでご覧ください。QRコードからもアクセスできます。



エコショップを探そう

市がエコショップに認定した事業所には、認定書と認定ステッカー、希望する事業所にはのぼりを配布しています。認定ステッカーにはそれぞれの事業所が行う環境への取り組み宣言を記入し、掲示してもらうようにしています。

この認定ステッカーに描かれているイラストは、平成28年にエコショップのキャラクターとして誕生し、平成29年に市民公募によって「エココッ葉」と名付けられたものです。



▲エコショップ認定ステッカー

民の皆さんには、積極的にエコショップを利用することで環境にやさしいライフスタイルの確立を呼び掛けています。

環境にやさしいまちを目指して

市内には海や川、山など豊かな自然環境があります。この環境は福津の財産であり、次の世代へつないでいく必要があります。そのためには、環境を保全していくことが必要であり、エコショップ認定制度はその推進に寄与できます。

例えば、使い捨て容器削減や量り売り、簡易包装の推進は、無駄をなくして持続可能な生産消費の確立に貢献して

います。また、アイドリングストップや太陽光発電の利用、リサイクル製品の販売・使用、空き缶・空き瓶などの店頭回収は、省エネルギーや、資源循環によって天然資源の消費を抑える取り組みといえます。さらに、公共エリアの環境づくりや地域の環境美化への協力は、住みよいまちづくりのために重要な役割を果たしています。

エコショップだけでなく、市民の皆さんの中にも環境保全に対する高い意識をもっている人が多くいます。昨年、市地域婦人会がエコショップの認知度などを調査した結果、多くの市民が環境のために自分ができることを行いたいと考えています。

考え、実際に行動していることが分かりました。また、エコショップを利用したいと答えた人も多くいました。

この特集をきっかけに、市民の皆さんのエコショップ認定事業所の利用が広がり、事業所の皆さんにもさらに環境に対して意識を持つ機会になればと考えます。

「エココッ葉」の生みの親 市内在住のデザイナー 高橋直緒さん

自然環境をテーマに、皆さんに愛されるマスコットになって欲しいと願い、そして子どもたちにも見つけてもらえるようにシンプルで、丸いフォルムにしました。チャームポイントは赤いほっぺです。ふるさとの福津に「エココッ葉」が溶け込み、広がっていくことがとてもうれしく、感動しています。今後も環境にやさしい取り組みのシンボルとして親しんでいただき、活躍してくれることを願っています。



エココッ葉は、7月に変更した市のごみ袋にも掲載しており、環境に配慮した取り組みのシンボルでもあります。

買い物に行った際など、意識してこのエココッ葉を探してみませんか。普段利用している店舗がエコショップ認定事業所だったりするかもしれません。

SDGsとエコショップの関係

現在、世界中の国々や企業などがSDGs(持続可能な開発目標)に取り組んでいます。SDGsとは、2015年に国連で採択された、社会

が今後持続的に発展していくために世界が達成すべき国際的な目標のことです。市は昨年、国からSDGs未来都市に選定され、持続可能なまちづくりを目指して取り組んでいます。SDGsの目標の中には「つくる責任・つかう責任」があります。この目標は、ものを作る側と使う側の両方に環境に配慮する責任があることを明確にし、それぞれの立場で持続可能な生産消費を目指すものです。市が取り組むエコショップも、ものを作る側の事業者に対してごみの減量化やリサイクルの推進、環境保全活動を呼び掛け、ものを使う側の市

フードロス削減×福祉活動で人を笑顔に



市内で餃子の製造・販売を行う有限会社山八は、昨年からフードバンク福岡と契約し、賞味期限の近い商品などを提供してフードロスを削減する取り組みを行っています。材料などの無駄をなくするための工夫をしても、以前はどうしても廃棄する商品が出ていたそうです。「まだ食べられる商品を、無駄にすることなく何かに役立てたいという思いから取り組みを始めた」と語るのは製造を担当する藤本史子さん。フードバンク福岡に渡った商品は、福祉施設や食事に困っている人たちに提供され、とても喜ばれるそうです。業務を統括する堀之内美影さんは「フードロスの削減と福祉活動への取り組みが、他の事業所にも浸透してほしい」と願います。

◀フードロス削減について熱く語る堀之内さん

エコショップ認定事業所
「有限会社 山八」の取り組み

自ら目標を立てることで省エネ意識を持つ



津屋崎地区の一般家庭ごみ回収などを行う有限会社津屋崎清掃社は、省エネルギーに関して自社目標を立てて取り組んでいます。特にごみ収集車の燃費や二酸化炭素排出量を毎年計算し、どのくらい改善されているのか評価をしています。また、アイドリングを控えるなどの取り組みの積み重ねにより毎年燃費は向上しています。社員の舩越裕子さんは「市民の皆さんから見えないところにもこだわりを持ち、これからも公共サービスを行っていききたい」と話します。また、リサイクルの推進にも積極的で、エコマーク商品など環境にやさしい方法で製造された商品を多く購入するなど、全社を挙げて取り組んでいます。

いつでもエコドライブを心掛けて運転しています▶

エコショップ認定事業所
「有限会社 津屋崎清掃社」の取り組み